



子どもにやさしい町に

すべての家庭が安心して子育てができる社会をめざし、就学前の教育、保育、子育てを支援する「子ども・子育て支援新制度」が平成27年春にスタートします。①「認定こども園」普及②待機児童解消のための保育の場増設③学校教育・保育の質の向上④子どもが減っている地域の子育て支援の充実という4つを中心に、取り組みを進めています。

新制度で増える教育・保育の場

認定こども園 0～5歳
教育と保育を一体的に行う施設
 幼稚園と保育所の機能や特徴をあわせ持ち、地域の子育て支援も行う施設。新制度では、認定手続きの簡素化などで、新たな設置や幼稚園・保育所からの移行をしやすくし、さらに普及を図っていきます。

幼稚園 3～5歳
小学校以降の教育の基礎を作るための幼児期の教育を行う学校
 利用時間：昼過ぎごろまでの教育時間のほか、園により教育時間前後や休業中の教育活動（預かり保育）などを実施。利用できる保護者に制限なし。

保育園 0～5歳
就労などでのため家庭で保育のできない保育所・保護者に代わって保育する施設
 利用時間：夕方までの保育のほか、園により延長保育を実施。利用できる保護者は共働き世帯など、家庭で保育できない保護者。

地域型保育 0～2歳
施設（原則20人以上）より少数人数の単位で0～2歳の子を預かる事業
 新制度では、新たに市町村の認可事業とし、待機児童の多い0～2歳児を対象とする事業を増やします。地域の様々な状況に合わせて保育の場を確保します。

三芳町の対応は
 新制度では、保育に欠ける・欠けないにかかわらず、幼児教育・保育を受けることを希望する保護者の申請に基づいて、客観的な基準をもとに保育の必要性の有無や必要量を認定します。保護者は町に申請して保育の必要性の認定を受け、町から認定結果に応じた「認定証」を発行します。※現在のところ三芳町内の認定こども園は未定です。



内山さんのお宅で夕食を食べ、ご機嫌の日菜子ちゃん。内山さんの手料理が大好き。内山さんのような提供会員は97人。また依頼会員は304人、両方会員は99人が登録しています。（平成26年3月現在）※提供会員からサービス提供を受けた依頼会員は、謝礼を支払います。【1時間当たりの謝礼基準額】
 ■ 平日7～19時…700円 ■ 平日6～7時・19～22時…800円
 ■ 土・日・祝日…800円 ■ 軽度な病児…1,000円

ファミサポ基礎講座開催

提供会員・両方会員（時間のある時、ほかの子を預かる依頼会員）のための基礎講座を行います。会員になってみたい人や、受講していない会員はぜひご参加ください。
 ▶日時 平成27年1月20日(火)14:00～
 ▶場所 藤久保公民館
 ▶内容 ファミサポについてのガイダンス/子どもとの時間の過ごし方
 問い合わせ ☎049-258-0075 (ファミサポ)

うした世代をつなぎ合わせるのがファミサポです。地域の子どもたちのため、働くパパ・ママをサポートするために、地域が密着して助け合うこの制度。利用するには登録が必要です。援助してほしい、援助したい人は、一度ファミサポにご連絡ください。☎049(258)0075

一方、依頼会員である岡野日菜子ちゃんのお父、新平さん。「共働きで、残業もあり、とにかく困っていました。中学3年・1年の子がいるのでなおさらです。しかし、こうした援助があり、今はフルタイムで働けるので、内山さんには本当に感謝しています。」と登録したきっかけと感想を語ってくれました。
 近くに頼る人がいない子育て世代。子育てを終え、子や孫が遠方に住んでいるため、さびしい思いをしている世代。そ

地域の助け愛

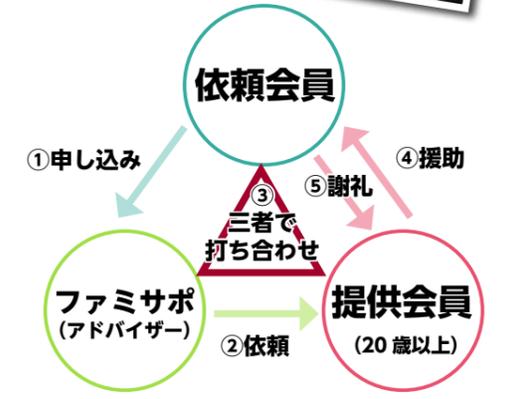


三芳町ファミリーサポートセンター
 子育ての援助をしたい人、受けたい人を地域で助けあう組織、ファミリーサポートセンター。子育てを応援し、サポートしたいと思う地域の皆さんの愛で成り立っています。



「残業があるので、子どもを迎えにいけない」「学校行事や冠婚葬祭のため、兄弟をどうしても預けたい」「たまには夫婦でリフレッシュしたい」と子育てを経験した人は思ったことがあるのではないのでしょうか。こうした問題を地域で助け合う組織があります。それが「ファミリーサポートセンター（通称：ファミサポ以下略）」です。

援助を受けた人を「依頼会員」、援助をする人を「提供会員」と呼び、その仲介をファミサポが行います。では実際にファミサポを利用しているケースをご紹介します。
 「私たちには孫がいないから、この子が本当の孫のように思います。」と笑顔で話す提供会員の内山千賀子さん(71)。「主人の正行さん(75)と一緒に、保育園に通う岡野日菜子ちゃん(3)のお迎えと夕食のお世話をし、保護者が内山さ



ファミサポ利用の流れ
 図 ☎049-258-0075



同じ建物にいるという安心感

空いている保育園がない、送迎バスがあるということで働こうと思いました。送迎バスの中でも子どもと一緒になので、思っていたよりも、一緒に時間が長いのでありがたいです。同じ建物にいるという安心感、そして悩みや成長を分かちあえる友達が増えて、本当によかったです。

【企業のサポート】駅や町内各所に送迎バスの停留所を設けることで、雨の日も出勤しやすい環境づくりをしています。急病で、どうしても早退しなければならない場合でも、送迎バスを出し対処するなどし、ママ目線の取り組みをしています。



出版産業：三芳町上富 991-7 ☎049-259-8010

左端の川越節子さんは定年まで、三芳町の保育士として働き、多くの子どもたちを見守ってきました。天気の良い日は積極的に外遊びをするなど、今までの経験を活かしています。

働きたくても働けないママを地域の企業が応援
 出版物事業、運輸事業などを行う町内の企業「出版産業」。今年1月から稼働した新本社に託児室「こころム」を設けました。「待機児童などの影響で、働きたくても働けないママが多くいます。企業としても、従業員の若返りを図りたいという思い、そして、地元三芳町に企業として還元できることはないかと考え、託児室を作りました。」と渡邊留雄社長は話します。
 託児室に預け、働いている人は現在7人。「子どもがそばにいたので安心して働ける」「ママ友が増えた」などの感想が聞かれました。「育児中のママたちが働きたいと思ったとき、資格がなくともすぐに働ける環境があります。興味のある人はぜひ、ご連絡ください。」と社長。地域の企業が子育てに対して応援していることは、とても心強いことです。